

まなび通信

令和8年
9月号②

豊中市立第一中学校 SE担当：

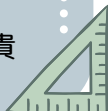
令和8年（2026年）9月14日（月）

先日、他市で開催された公開授業研に参加しました。5時間目に全クラスで公開授業が行われ、続く6時間目には国語と保健体育の研究授業が実施されました。授業後には、それぞれの研究授業についての事後検討が行われ、その後、大阪教育大学の先生をお招きし、新学習指導要領に関するご講演がありました。

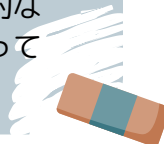


5時間目の授業で特に興味深かったのは、意見交換の場面で、生徒自身が「意見を交流するなら、班形式の方が良いのではないか」と提案していたことです。これは、生徒たちが単に指示された学習方法に従うだけでなく、自ら最適な学び方を選択し、その方法でより深い学びを得ようとする、学びに向かう姿勢の向上を感じました。また、生徒たちが主体的に学習方法を考え、提案できる環境が整っていることに、教育的な可能性を感じました。

事後検討では、各研究授業を参観した主催校の先生方と校区の小学校の先生方がグループに分かれ、参観時に記入したカードをもとに、協議されていました。研究部の先生方や他市からの参加者は協議の様子を見守る形となっていたため、私は小学校の研究部の先生方と、授業の振り返りやICT機器の活用について意見交換をさせていただきました。小学校の先生方から授業づくりやICTの活用についてのお話を伺うことができ、校種を越えて授業について考える貴重な機会となりました。



6時間目は保健体育「単元：武道（剣道）」の授業を参観しました。この授業では、スポーツチャンバラを取り入れ、本時では前時の反省を活かした個別練習を中心に展開されていました。技能を身に付けるだけでなく、動画やタブレットを活用して自分の動きを客観的に振り返ったり、友達と協働して課題を分析したりするなど、主体的に学ぶことのできる工夫がされていると感じました。また、教師が生徒のつまずきに応じて声かけを行い、見るべきポイントを整理しながら理想的な動き（間合い）へとつなげている点も印象的でした。チェックポイントや話し合いの場面を取り入れることで、技能面だけでなく、考えたことを伝え合う言語活動にもつながっていると感じました。さらに、個々の課題に応じて学び方を工夫できる環境（練習方法）が整えられており、個別最適な学びと協働的な学びが一体となった授業になっていると感じました。



大阪教育大学の先生からのご講演では、特総合的な探求の時間（現総合的な学習の時間）について生徒の興味・関心等に基づいて課題を設定し、各教科等で身に付けた知識や思考、言語能力や情報活用能力を横断的・総合的に活用しながら、自分なりの意味理解を構築していくことが、探究の質を高める上で重要であると学びました。さらに、教師が一方的に学習を進めるのではなく、生徒一人一人が学習過程で主体性を発揮し、学習を自己調整していくことの大切さについても考える機会となりました。

令和31年度からの全面実施に向けて、次期学習指導要領の方向性を意識しながら、現在の授業実践を見直し、生徒の学びの質を高めていければと思いました。

